

S I D R 滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第3巻第39号

第39週(9月22日～9月28日)

発行年月日:平成15年(2003年)10月3日

発行:滋賀県立衛生環境センター内

滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

1) 全数報告の感染症(1類～4類)

感染症類型	疾患名	報告数 (39週)	累積報告数		平成14年報告数	
			滋賀 (39週)	全国 (39週)	滋賀	全国
1類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	0	3	352	6	693
	パラチフス	0	0	26	1	33
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	0	7	199	14	3132
4類感染症	アメーバ赤痢	0	2	369	6	453
	エキノкокクス症	0	0	15	1	9
	オウム病	0	1	35	0	55
	急性ウイルス性肝炎	0	3	535	2	915
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	3	84	2	146
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	44	1	90
	後天性免疫不全症候群	0	6	641	6	888
	ツツガムシ病	0	1	138	0	329
	梅毒	0	2	352	4	561
	破傷風	0	1	50	0	105
レジオネラ症	0	1	112	1	166	
指定感染症	重症急性呼吸器症候群(SARS)	0	0	0	0	0

* 平成14年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。

* 指定感染症:患者が発生した場合に、都道府県知事の判断により、まん延防止のための迅速な対応が可能になります。

2) 定点把握の対象となる4類感染症

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								前週との比較(定点当たり患者数)
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津	
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0	
咽頭結膜熱	0.59	0.86	2.17	0	0	0	0	0	
A群溶連菌咽頭炎	0.44	0	1.17	0	0	0.50	0	2.50	
感染性胃腸炎	0.72	2.14	1.17	0.25	0	0	0	0	
水痘	0.31	0.43	0.67	0	0.20	0.25	0.25	0	
手足口病	0.91	0	1.17	0.50	2.80	0	0.75	1.50	
伝染性紅斑	0	0	0	0	0	0	0	0	
突発性発疹	0.84	0.86	1.00	1.25	0.40	0.50	1.00	1.00	
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	
風疹	0	0	0	0	0	0	0	0	
ヘルパンギーナ	0.25	0.29	0.50	0	0.20	0.50	0	0	
麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性耳下腺炎	0.28	0.43	0.33	0	0.20	0	0	1.50	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	0.43	0	0	2.00	0	1.00	0	0	
急性脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
無菌性髄膜炎	0.29	0	0	0	0	0	2.00	0	
マイコプラズマ肺炎	0.57	0	0	0	0	0	4.00	0	
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
成人麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	

全国集計などの詳細な集計結果は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)において公表されています。

0 0.2 0.4 0.6 0.8 1 1.2
定点当たり患者数

3) 今週のトピックス

咽頭結膜熱の発生は減少傾向持続 突発性発疹の発生は昨年同時期より増加傾向

定点把握の対象となる4類感染症の発生状況を先週と比較すると、患者報告数は先週に引き続き減少しています。また、A群溶連菌咽頭炎、手足口病、突発性発疹、マイコプラズマ肺炎の定点当たり患者数は増加していますが、咽頭結膜熱、感染性胃腸炎、流行性耳下腺炎等の定点当たり患者数は減少しています。

咽頭結膜熱については、先週に引き続き減少し、定点当たり患者数は0.59となっていますが、**草津保健所**管内においては、2.17となっています。

A群溶連菌咽頭炎については、**今津保健所**管内の定点当たり患者数が2.50と多くなっています。

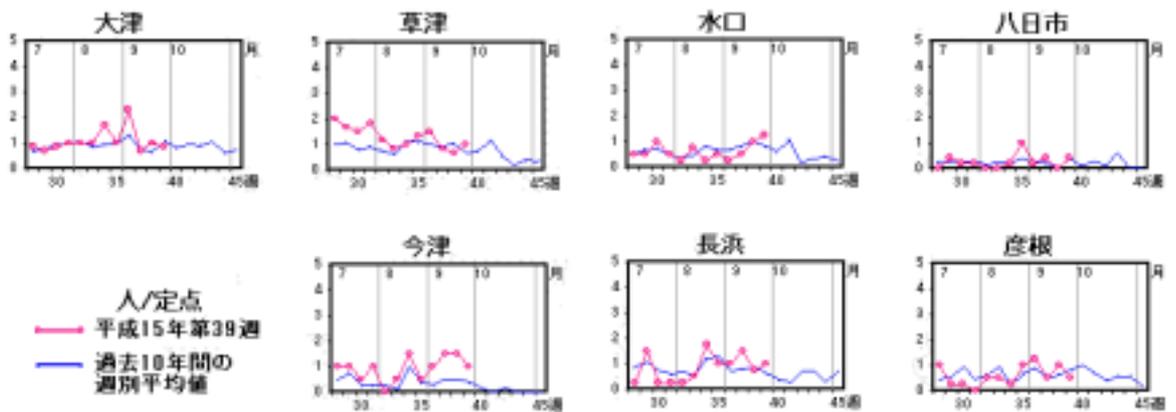
手足口病については、第34週の定点当たり患者数は0.44に減少しましたが、第35～39週の定点当たり患者数は、0.63～0.97で推移しています。特に**草津**、**八日市**、**今津保健所**管内における定点当たり患者数が増加傾向を示しています。

突発性発疹については、昨年の同時期と比較すると、第33週までの発生状況に大きな変化はみられません。第34週からの定点当たり患者数は昨年よりかなり多くなっています(疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

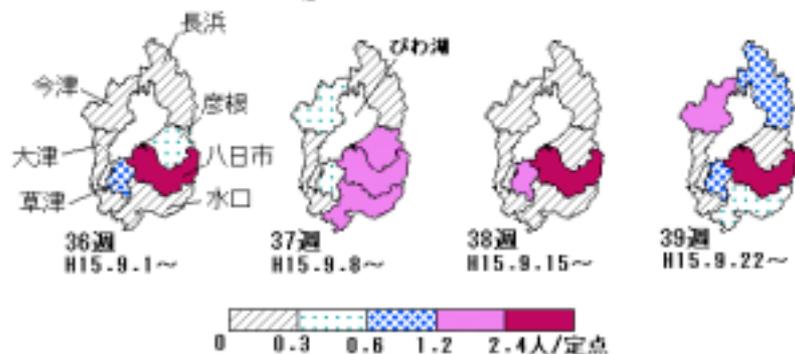
無菌性髄膜炎については、第23週から連続して患者発生の報告があり、全国の定点当たり患者数と比較するとかなり多くなっています。特に、**長浜保健所**管内において多くなっています。

* 突発性発疹および手足口病の保健所管内別発生状況は下記のグラフのとおりです。
また、定点把握の対象となる4類感染症の患者報告数のグラフは下記のとおりです。

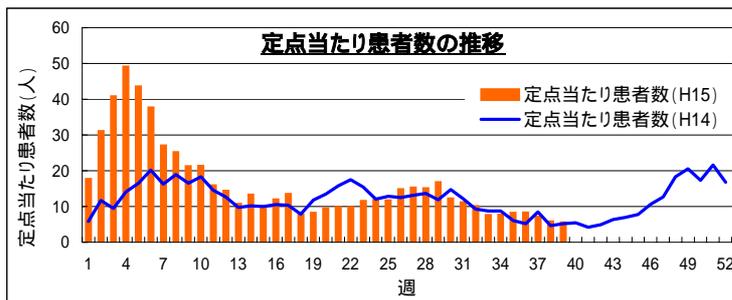
突発性発疹の保健所管内別発生状況(平成15年第39週)



手足口病の保健所管内別・週別発生状況(平成15年第36週～第39週)



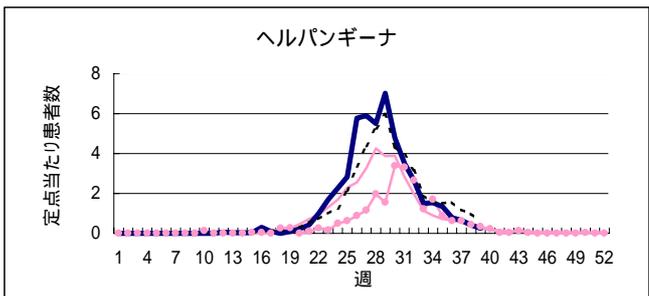
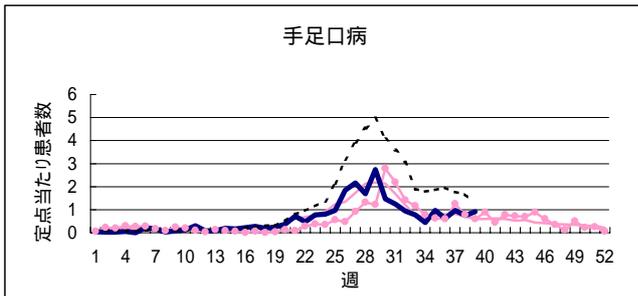
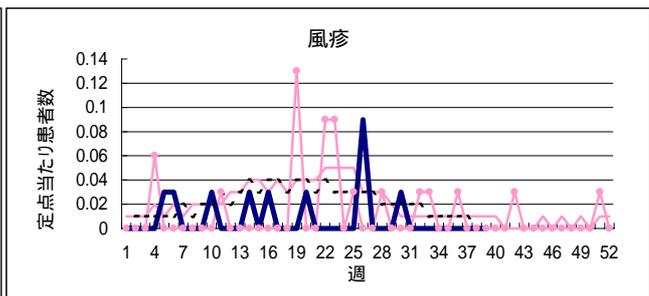
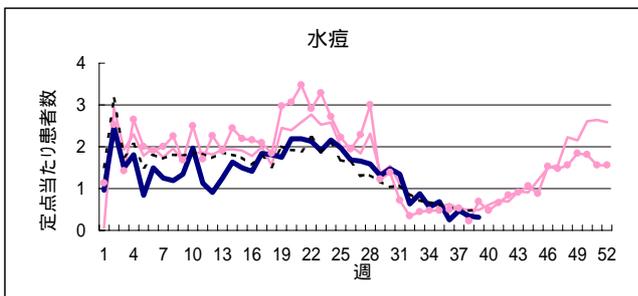
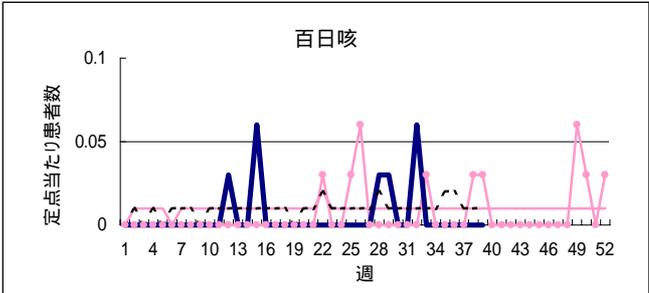
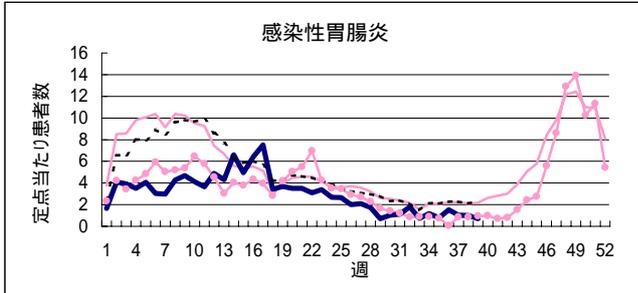
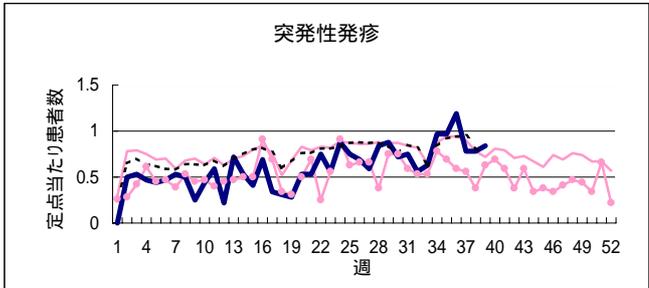
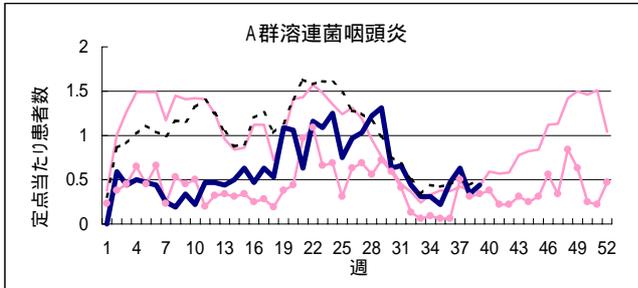
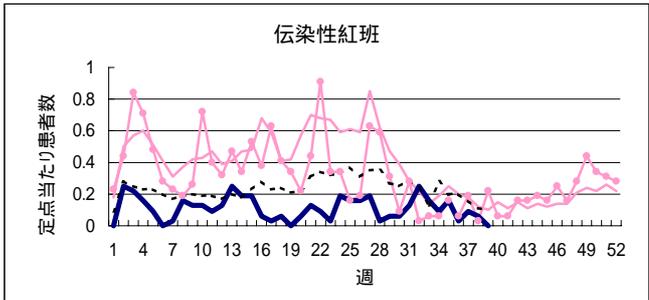
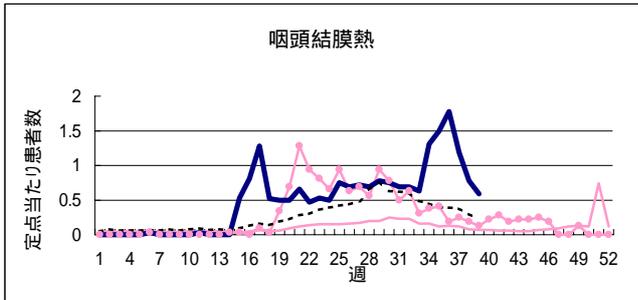
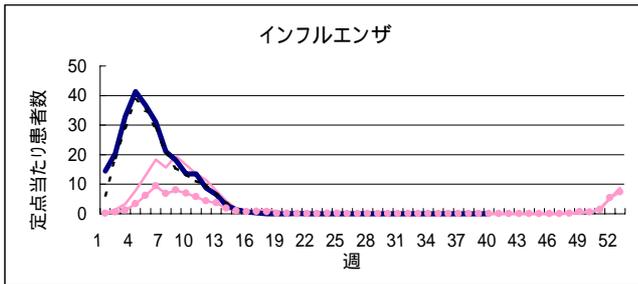
定点把握の対象となる4類感染症の定点当たり患者数の推移(平成14年第1週～平成15年第39週、滋賀県)



定点把握の対象となる4類感染症(21疾患)の発生状況を見ると、平成15年の第24週以後は、平成14年と同様の傾向を示し、対象疾患の発生は少ない状態となっています。

また、平成15年第4週をピークとする定点当たり患者数の増加は、インフルエンザの流行が大きく影響していると考えられます。

疾病別定点当たり患者数(平成15年第1週～第39週)



疾病別定点当たり患者数(平成15年第1週～第39週)

H14 〔 滋賀 ●●●●●●
 全国 ————
 H15 〔 滋賀 ————
 全国 - - - - -

